

記者発表資料

平成 29 年度 千葉港湾事務所の事業概要について

平成 29 年度の千葉港湾事務所の主な事業概要は以下のとおりです。

1. 千葉港葛南中央地区国際物流ターミナル整備事業等
千葉港葛南中央地区において、泊地(水深 12m)及び航路(水深 12m)の埋没対策として防泥柵の整備等、岸壁(水深 10m)の整備を実施していきます。
2. 木更津港南部地区クルーズ船受入環境の整備
木更津港南部地区において、クルーズ船受入環境の整備として岸壁(水深 12m)の係船柱と防舷材の整備を実施していきます。
3. 東京湾海洋環境整備事業
海上交通が輻輳している東京湾の船舶の航行安全・湾内の環境改善のため、清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミや油の除去を行うとともに、モニタリングポストによる水質の連続観測等(東京湾海洋環境整備事業)に引き続き取り組んでいきます。

千葉港湾事務所ホームページURL <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/chiba/index.html>

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、
千葉県政記者会、千葉市記者クラブ、物流専門紙

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 千葉港湾事務所
副 所 長 蟻川 辰美 (ありかわ たつみ)
工務課長 高橋 康弘 (たかはし やすひろ)
T E L 0 4 3 - 2 4 3 - 9 1 7 3
F A X 0 4 3 - 2 0 4 - 4 5 5 9

事業の概要

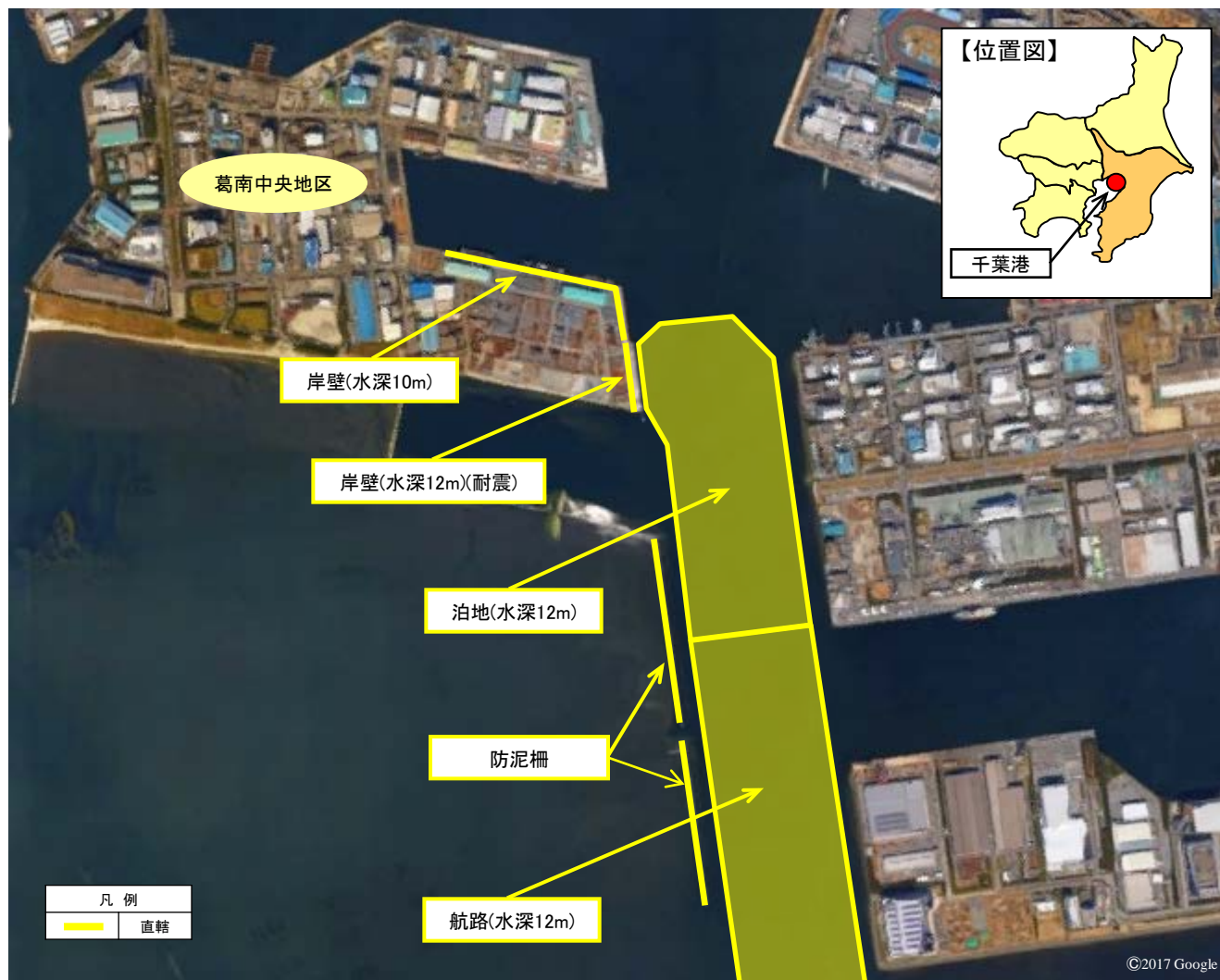
千葉港葛南中央地区は石油・化学工業、食品製造業、金属取扱企業等が立地する物流拠点です。近年の貨物船の大型化に対応し、円滑な物流を確保するため、新たな国際物流ターミナルを整備するとともに、利用制限等の措置が取られている施設の老朽化対策等を実施しています。

平成29年度予定

- 泊地(水深12m)及び航路(水深12m)の埋没対策として防泥柵の整備等を実施する予定です。
- 岸壁(水深10m)の整備を実施する予定です。

事業の効果

- 国際物流ターミナルの整備により大型船によって一度に大量の貨物輸送が可能となり、海上輸送コストの削減等が可能となります。
- 耐震化により、大規模地震発生後も緊急物資等の輸送拠点として機能します。
- 老朽化した施設の機能を回復し延命化を図ります。



事業の概要

京葉工業地帯の一翼を担う木更津港は、東京湾東部のほぼ中央に位置し、背後に鉄鋼関連会社や火力発電所が立地するなど、千葉県南部地区における経済社会の基盤を支える重要な港湾です。急増するクルーズ需要やクルーズ船の大型化に対応するため、クルーズ船の受入環境の整備を実施しています。

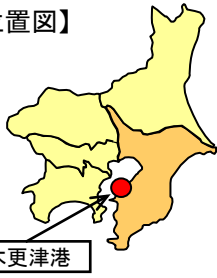
平成29年度予定

○岸壁(水深12m)の係船柱と防舷材の整備を実施する予定です。

事業の効果

○木更津港へクルーズ船が寄港することにより訪日クルーズ旅客による経済効果が創出され、地域の活性化が図られます。

【位置図】



岸壁(水深12m)

木更津南部地区

凡 例

直轄

東京湾 海洋環境整備事業

H29年度事業費：2.0億円

【東京湾全域】

事業の概要

東京湾における港湾区域以外の一般海域は国が清掃活動を実施しています。また、油流出事故等が起こった際には浮遊油回収等も行います。さらに、東京湾では富栄養化による赤潮や貧酸素水塊による青潮が発生しており、海洋環境把握のため水質データ等の取得も行っていきます。

平成29年度予定

- ◆清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミ・油の回収、水質調査を実施します。
- ◆東京湾内に設置した4箇所のモニタリングポストにより、気象（風向・風速・気温）、水質（水温・塩分・濁度・クロロフィルa・溶存酸素）、流況（流向・流速）について連続観測を実施し、データを公開します。

事業の効果

- ◆海面を漂う浮遊ゴミ・油の回収を行い、東京湾の水質改善及び親水空間への漂着による景観悪化防止並びに、航行船舶の安全性向上が図られています。
- ◆環境モニタリング等の各種環境調査を行うことで、湾全体の環境メカニズムの把握、水環境・生態系の保全・再生等今後の環境改善対策に生かされます。



清掃兼油回収船「べいくりん」による浮遊ゴミの回収作業



湾内6箇所にて水質調査を実施



設置されたモニタリングポスト(浦安沖)